

令和3年度 佐賀県農業大学校 評価表(実績)

資料 3

教育目標	〇 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 〇 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成	〇達成度 A:十分達成できている(100%以上) B:概ね達成できている(100%未満~80%以上) C:やや不十分である(80%未満~60%以上) D:不十分である(60%未満)
重点目標	1.優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得 3.全ての学生の進路決定 4.農業者研修の充実	

目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
優秀な入学者の確保	受験者数	・受験者30名以上	・農大の情報の発信 ホームページを各専攻月1回以上更新 講義・実習等の週1回以上の写真撮影、ホームページ掲載 校内でホームページ操作研修会の開催  広報紙「緑旗」の配布、新聞等広報媒体への情報提供  ・各機関・団体への周知 全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙に学生募集の掲載依頼 県広報紙への掲載 全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付 農大の募集説明会への参加 10校以上  高校への進路ガイダンスへの参加 10回以上  同窓会組織を活用した学生募集推進  ・農業系高校等との連携強化 農業系高校連絡会議の開催 農大への現地研修の受け入れ及び農業系高校への出前授業への積極的参加10回以上 高校生の農大施設訪問3回  未来さが農業塾生徒の農大訪問等の積極的 情報提供	〇受験者数は、推薦・一般(一次募集)の受験者28名、一般(二次募集)の受験見込者8名の計36名である。 ・ホームページを概ね毎月1回更新した(11回)。 ・農産物直売や実習等週1回の撮影を実施した。  ・広報紙「緑旗」の配布(年2回)、佐賀県広報誌、新聞等広報媒体への情報提供を行った。 ・TV番組「農カモン」に在校生が出演し、積極的に取材協力して農大の取組紹介を行った。また、NOSAI機関誌に在校生の紹介記事が掲載された。 ・全てのJA、市町、農業委員会、普及センターの広報誌に学生募集の記事掲載を依頼した。  ・また、県広報誌に学生募集の記事掲載を依頼した。  ・全ての高校に募集要項・ポスターを配布し、志願希望者数の聞き取りを実施した。 ・高校向けの学生募集説明会を開催した(6/16 7校参加)。また、高校訪問を6月17日~7月2日に実施した。 ・農業系高校を中心に進路ガイダンスに延べ3校参加し、4校参加見込である(新型コロナの影響で中止3校)。 ・PR用クリアファイルを進路ガイダンス等で配布した。  ・農業系高等学校長との連絡協議会を開催した(5/19)。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催した(6/16)。 ・農業系高校への出張講義を延べ6回実施した。 ・農校生の農大施設訪問を1回受け入れた(新型コロナの影響で中止1回)。 ・未来さが農業塾の入塾式、塾生徒と農大生との交流は、昨年度に引き続き、新型コロナ感染拡大の影響で中止となった。	A	・本科受験者(見込者含む)33名中、農業系高校出身者は12名で、農業系以外の出身者が多かった(R3 37名中、農業系高校出身者は16名)。  ・引き続き、農業系高校を中心に、農業を志す多くの受験者を確保できるよう、高校との連携及び広報活動に力を入れる。	

目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
	オープンキャンパスの参加数	・オープンキャンパス参加者40名以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業系高校等との連携強化 農業系高校連絡会議の開催 2回</li> <li>オープンキャンパスの開催 3回 在校生との交流会の実施</li> <li>・農大の情報の提供 ホームページを各専攻月1回以上更新 講義・実習等の週1回以上の写真撮影</li> <li>・各機関・団体への周知 全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙にオープンキャンパスの掲載依頼 県広報紙への掲載、広報媒体を活用したPR 全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オープンキャンパスの参加者数は、延べ43名であった。 (保護者28名を含めると、総数延べ71名)</li> <li>・農業系高等学校長との連絡協議会を開催した(5/19)。</li> <li>・オープンキャンパスを3回開催した(7/4、7/28、8/22)。</li> <li>・オープンキャンパス時に在校生との交流を実施した。</li> <li>・ホームページを概ね毎月1回更新した(11回)。</li> <li>・農産物直売や実習等週1回の撮影を実施した。</li> <li>・全てのJA、市町、農業委員会、普及センターの広報誌にオープンキャンパスの募集記事掲載を依頼した。</li> <li>・また、県広報誌に記事掲載も依頼した。</li> <li>・高校訪問を6月17日～7月2日に実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの参加者延べ43名のうち、高校2年生以下は6名だった(R2は、1名)。</li> <li>・引き続き、早い段階から農大に興味を持ってもらえるように、オープンキャンパスへの参加を幅広く呼びかける。</li> </ul>	
2	高い技術力や経営力の習得	<p>【土地利用型】</p> <p>○栽培管理技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得</li> <li>・スマート水田農業機械の操作習得</li> <li>・スマート水田農業機械が活用できる学生の割合 100%</li> </ul> <p>○農業機械の基本操作と維持管理の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一連の作業が機械で出来る到達学生の割合100%</li> <li>到達した学生の割合100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認</li> <li>・学生による栽培計画書の作成指導</li> <li>・スマート水田農業機械を活用した水田作業の指導</li> <li>・スマート水田農業に関する知識の習得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自のプロジェクト課題を進める中で、米麦大豆の播種から収穫、乾燥調製まで一連の作業を再確認させた。また、収量や品質・経費なども作業日誌に記録させコスト意識の理解度を確認した。</li> <li>・スマート農業機械の導入で、それぞれの機械の特性を理解させ、圃場における操作や運転を体験させた。すべての学生が、GPSトラクター、GPS田植機、GPS収量コンバインを操作する事が出来た。</li> <li>・オープンキャンパス時には、学生自らが参加高校生にスマート農業機械の操作や機能を伝えるなど、知識や運転技能の習得ができた。</li> <li>・農業用ドローンも全ての学生に操作体験させる事が出来た。6人の学生がドローンの運転免許を取得した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート水田農業機械を使った総合的で実践的な実習の充実を図る。</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業機械の操作指導</li> <li>・作物栽培と連動した機械作業の習得指導</li> <li>・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の基本操作及び圃場作業のマニュアル書を作成させ、農業機械の操作を習得させた。</li> <li>・一連の機械基本作業を全ての学生が安全に操作できるようになった。</li> <li>・大型特殊(農耕車)免許および、けん引(農耕車)フォークリフト免許を全員取得した。</li> </ul>	A		

目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	・高い技術力や経営力の習得	<b>【露地野菜】</b> ○栽培管理技術の習得  ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得  到達した学生の割合 100%以上	・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認  ・学生による栽培計画書及び栽培暦の作成指導  ・スマート農業機械を活用した管理作業の指導  ・農業技術検定(3級、2級)	・実習では栽培日誌に毎日の栽培管理と観察記録を記帳して提出させ、理解度の向上を図った。  ・農業試験研究センターと連携してタマネギ肥料試験のプロジェクト課題に取り組み、新しい技術の習得を行った。  ・今年度はホワイトコーンやパプリカを新たな品目として導入して栽培技術を習得させた。また、ホワイトコーンはプロジェクト活動に取り組んだ。  ・ドローンを活用したイモ類の防除作業を実施し、技術習得を図った。また、専攻学生1名が農業用ドローン免許を取得した。  ・農業検定に向けた勉強会を4回実施し、2級に1名、3級に4名が合格し、専攻学生の100%が検定合格者となった。	A	・実習で身に着けた技術を基に自ら計画を立てて一連の栽培管理が行えるように指導していきたい。	
		○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得  ・一連の作業が機械操作ができる学生の割合 100%以上	・農業機械の操作指導  ・農業機械の作業点検方法の指導	・トラクター、防除機、タマネギ定植機、管理機等の実習で使用する農業機械の操作実習を行い、全学生が安全に基本操作ができるようになった。  ・トラクターと草払機は専門の職員によるメンテナンスと安全作業に関する操作指導を受けた。また、実習の中でも農業機械の点検を実施し、オイル交換等の基本的な管理ができるようになった。	A		
2 高い技術力や経営力の習得	・高い技術力や経営力の習得	<b>【施設野菜】</b> ○IoT機器を活用した栽培管理技術の習得  ・IoT機器が活用できる学生の育成 100%	・観察記録と栽培作業日誌の記帳確認  ・IoT機器の活用を前提とした栽培の理論と実際の環境制御技術の指導	・専攻実習において毎日の植物観察と作業日誌へ記録させ、生育予測に基づいた管理の意識付けを指導実施した。  ・環境測定機器の取り扱い方法及び設定方法、活用方法は、実習時間内に、講義と実機の操作によって習得させた。  ・特に、光、温度と植物の生育の関係を、実際の栽培を通して指導を実施した。  ・また、週間天気予報の活用と環境設定の指導を強化し、知識の習得を図った。	A	・農業系出身以外の学生が多くなっているために、植物の生理生態に関する知識や基本的な生産技術を早期に習得し、品目・作型に適した栽培管理の実践に取り組む。	
		○経営能力の向上 ・担当する品目の所得の把握ができる 100%	・作型毎の作付け計画の作成指導と進捗管理  ・経営記帳の指導	・プロジェクト課題設計検討や課題の進捗状況を把握し、効率的・効果的な研究に取り組めるよう指導を実施した。  ・プロジェクトで取り組む野菜品目での収量・品質・経費等の記録を指導し、全員に実行させた。  ・2年生全員にプロジェクト課題において、所得を算出させ、卒業論文で取りまとめた。	A		

目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得		○GAPの実践を通じたよりよい施設園芸の実践 ・GAPを実践できる学生の育成 100%	・施設野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導を行った。 ・使用資材・機材は共通で使用する頻度が高いので使用後には必ず整理・整頓を行った。 ・使用資材の使用履歴の記帳を指導し、全員で取り組んだ。	A		
	・高い技術力や経営力の習得	【花き】 ○花き栽培に関する基礎知識の習得  ・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の基礎的知識を習得到達した学生の割合 100% ※	・主要栽培品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生態、栽培管理の基礎知識及び栽培技術習得  ・作業日誌の記帳確認  ・新規品目作付けへの取り組み  ・環境制御技術での新たな取り組み ・農業技術防除センターや農業試験研究センターからの卒論プロジェクト課題等に関する情報提供等の支援	・朝管理の時間を利用し、主要品目の基礎的な生理生態、基礎知識の習得した。  ・上記品目の播種から栽培、管理、収穫まで一連の作業を解説しながら実践し、後日試問や作業日誌等で理解度を確認した。 一年生と二年生では理解度が異なるため、それに応じて個人別指導を実施した。 ・担当品目を決定し、作付け計画と実践を学生自身で主体的に行い、不足分や違っている点について指導、助言を行った。 ・これまで県内でも栽培されていない新規品目について、作付けのため知識習得や実際の栽培に取り組んだ。 ・関係機関（農業技術防除センター、農業試験研究センター、農業改良普及センター）と連携し、卒論の課題は地域課題解決に取り組めた。	A	・卒論課題の成果を地域解決課題として研修会等へデータとして提供できたが、データのみでのフィードバックで弱かったため、次年度は研修会等への参加で地域にフィードバックできる機会を設ける	
		○花きの品質保持及び6次加工に関する技術の習得 品質保持及び加工技術の習得到達した学生の割合 100% ※	・収穫後の花きの鮮度保持技術、フラワーアレンジメントなどの加工技術の取得	・収穫後の品質保持技術の知識及び技術の習得のため、6次加工（染色、レインボー染め、フラワーアレンジメント、ドライフラワー加工品）等を行い、直売や収穫祭を通して消費動向調査し、消費者ニーズを把握できた。	A		・市場と連携し、新規品目及び加工品目の評価を仰ぐことで流通の知識を深める
・高い技術力や経営力の習得	【果樹】 ○主要常緑・落葉果樹の栽培技術の習得  到達した学生の割合 100%	・主要常緑・落葉果樹の生理生態理論について指導  ・果樹の高品質・安定生産技術の指導  ・最新の栽培技術の講義及び指導  ・県育成品種「にじゅうまる」等の新品種栽培技術の指導	・各樹種における生育ステージ毎の理論を講義し、実習終了時に気づき及び感想を整理させて理解させた。 ・品目毎に栽培管理計画書を作成指導し、担当品目は生産から販売までの一貫体制を指導した。 ・プロジェクト課題等については、果樹試験場と連携し課題解決の方策を指導し、解決方法を確認できた。 ・うんしゅうみかん「佐賀果試9号」や「にじゅうまる」の技術習得のため、圃場に定植し、栽培技術を指導した。	A			

目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得		○スマート農業に関する知識の習得 到達した学生の割合 100%	・AI技術を取り入れた栽培管理技術の習得  ・省力栽培技術の習得	・温州ミカン根域制限栽培圃場を設置し、さらに新設トンネルハウスでブドウの根域制限栽培及びナシジョイント栽培のAIによる肥培管理システムを設置し理論を指導した。 ・ロボット草刈り機及びスピードスプレイヤーを導入し、圃場管理作業の効率化について指導、実施した。	A	・AI技術を活用した灌水及び肥培管理技術を実践し、問題点を整理し改善策を検討する。	
		○経営能力の向上  果樹経営特性を理解 到達した学生の割合 100%	・果樹経営特性の理解	・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額等についての記帳させ、経営収支を確認させた。 ・市況や統計資料等と記帳結果と比較して、担当圃場の問題点を整理し改善策を検討させた。 ・プロジェクト課題等においては、試験結果を検証し経営改善点を整理させた。	A	・果樹のGAPに取組み、圃場管理作業や労働環境の改善点を整理していく。	
高い技術力や経営力の習得	・高い技術力や経営力の習得	<b>【畜産】</b> ○繁殖生理の学習と繁殖技術の習得 到達した学生の割合 100%	・家畜の性周期、発情兆候の理解  ・家畜人工授精技術の習得及び技術の向上	・繁殖牛発情を観察させ記録表への記入させ、発情周期について理解させた。 ・分娩前の牛を観察させ、分娩兆候と妊娠期間について理解させた。  ・家畜人工授精師免許取得率100% ・家畜人工授精の方法を習得させた。  ・スマホアプリ活用による繁殖牛の個体管理方法を習得させた。	A	・堆肥舎も建て替わるので、堆肥舎がない期間は別の場所で実習ができるか検討する。	
		○家畜栄養の学習 到達した学生の割合 100%	・飼料給与技術の習得  ・各畜種(乳牛、和牛、豚)の飼料給与技術の習得	・繁殖牛、肥育牛、子牛について飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与方法を習得させた。 また、肥育牛及び子牛発育状況把握のための毎月体測実施し、栄養管理について理解させた。 子牛の発育状況確認のために子牛セリへ参加した。  ・スマホアプリ活用による繁殖牛の栄養状態の確認方法を習得させた。 ・畜産試験場での実習を これまで31回以上実施した。	A		
		○家畜ふん尿処理及び利用技術の学習 到達した学生の割合 100%	・糞尿の堆肥化処理技術の習得  ・堆肥の散布技術の習得 ・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習	・毎週1回以上堆肥舎での関連作業機械を操作させ堆肥化処理技術を習得させた。 ・堆肥化に伴う堆肥の温度変化観察の実施し、良質な堆肥生産方法を理解させた。 ・ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた圃場散布作業を習得させた。	A		
		○飼料作物栽培の学習 到達した学生の割合 100%	・一般的な飼料作物生産技術の習得 ・作業機械操作技術の向上	・夏作、冬作の飼料作物栽培実践し、技術を習得させた。 ・作業機械を用いた耕起、施肥、播種、収穫、調整に方法について理解させた。	A		

目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	・高い技術力や経営力の習得	<b>【農産加工】</b> ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得  ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	・漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施  (1年生) ・食品衛生及び野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施  (2年生) ・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施	・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術習得が出来た。 ・農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得が出来た。  (1年、専科) ・食品衛生法や食品表示に関する基礎知識の習得した。 ・加工演習は一次加工を実施し、11品目を加工製造した。 ・シーラー機やカップシール機等の基本的な機材操作を習得。  (2年) ・レトルトコンポート等のより高度な2次加工技術の演習を実施し、15品目を加工製造した。 ・真空包装機やレトルト殺菌機等の高度な機材の実習。	A	・より安心、安全な商品づくりを目指すため、食品衛生の管理方法の指導強化。  ・農大オリジナル商品の開発と定番化を目指す。	
		○学生発案によるオリジナル商品の開発、定番化 1商品以上	・農産加工研究会(学生の自主組織)への指導  ・直売での販売動向の把握及び分析	○農産加工研究会による試作研究 学生の提案をもとに、農大産の農産物を利用した試作研究の指導をした。  ・加工技術支援及び消費者意向調査方法などについて指導した。  ・学生発案によるオリジナル商品化に向け技術指導した。結果、直売等において35品目の販売を行った。  ・直売での販売動向を把握するため、製造・販売記録の記帳指導をおこなった。	A		

目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	・高い技術力や経営力の習得	<b>【資格等の取得向上】</b> ○カリキュラムの中で必要な資格の合格率100%  ※大型特殊免許、けん引免許、家畜人工授精師等  ○選択性の資格の合格率 50%以上  ※農業技術検定、危険物取扱者、家畜商、ボイラー、フォークリフト、狩猟免許等	・研修の充実  ・受講期間中、合格レベルに達しない者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施  ・資格や免許に対応した特別講義の開催 ・小テストの実施及び解説 ・過去問題を活用した指導	・必須の免許・資格の取得（合格率100%） ・農耕用大特免許 33名 ・農耕用けん引免許 24名 ・家畜人工授精師 11名  ・選択性の免許・資格の取得状況（合格率70%） ・農業技術検定3級 7名 ・農業技術検定2級 1名 ・農業簿記検定3級 1名 ・毒物劇物取扱者 4名 ・危険物取扱者（乙4） 2名 ・危険物取扱者（丙） 1名 ・フォークリフト 1名 ・アーク溶接 10名 ・ドローン技能検定 9名 ・家畜商免許 11名 ・フラワー装飾技能士3級 1名 ・狩猟免許（わな猟） 1名  ※小型車両系建機 6名（2月受講予定） ※フォークリフト 10名（3月受講予定）  ・特別講義の開催、過去問題を活用した指導等を実施した。	A	・引き続き、必須の免許・資格の取得向上を目指す。	
3 全ての学生の進路決定	・就農・就職決定率	就農・就職率100%	・就農・就職指導の強化 ・進路指導を行う専任職員の配置 ・農業次世代人材投資事業（準備型）の支援 ・社会人としてのキャリア教育の実践 5回 ・1年生からの進路指導の強化 ・先進農家（農業法人を含む）視察研修の実施 3回 ・求人情報の提供 随時（63社以上） ・農業大学校での農業法人、企業等の会社説明会の実施 10回 ・ハローワークとの連携 5回  ・若手農業者との意見交換会の開催 2回 ・インターンシップの積極的推進	・就農・就職決定率は、これまでのところ95%である。 ・進路指導専任職員（会計年度職員）を1名配置した。  ・キャリアプランニングの講義を、ジョブカフェ佐賀と連携して、1年生6回、2年生6回行った。 ・求人情報の提供が延べ70社からあり、随時学生に情報提供した。 ・農業大学校での会社説明会を2回開催した。  ・ハローワークと就職に関する情報交換を11回行った。  ・先進農家（農業法人を含む）、県試験研究機関への専攻別の視察研修を4回実施した。 ・伊万里地区の若手農業者との意見交換会と現地見学会に各1回参加した。 ・農大OBの講義を2回、先進農家の講義を1回、佐賀県4Hクラブ員との交流会を1回開催するとともに、海外派遣事業説明会も1回実施した。	B	・引き続き、将来目標を早めに設定させるように、早期に就農・就職指導等を実施する。	

目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	・大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	○受講待機者の削減 ・免許合格率:95%以上	・受講待機の状況に併せた研修回数の設定 ・研修の受講辞退者にも対応した受講者の調整 ・操作技術(特に、けん引)の指導方法の工夫	・市町と受講待機者の情報を共有化した。 ・年度当初に、県機関等に受講生を募集し、直前にキャンセルがあった時に定員を確保できるよう調整を行った。 ・模範操作の動画や機械模型の作成・活用し、受講生が理解できるよう努めた。 ・実際に指導員が実演する等、実習の指導方法を工夫した。 ・免許合格率は大特99%、けん引99%だった。	A	・現在の研修体制を継続し、受講待機者の削減に努める。 ・無線機の導入による指導環境の改善。	
	(さが農業経営塾) 受講者数	○受講者数 (定員の確保) 10名	・農業士、青年農業士、女性農業者、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者、市町、JA青年部等への周知	・青年農業者や女性農業者を対象としたオンラインセミナーを開催し、農業経営塾のPRを実施した。 ・JAや各関係機関へもパンフレットを配布し、経営塾開催の周知を図った。 ・新聞、HP等を活用した情報提供も行った結果、13名の受講者を確保することができた。 ・併せて、サポート人材として、6名の普及指導員にも講座に参加してもらっている。	A	・普及指導員の受講を継続することにより、普及活動との連携を進め、受講生への支援体制強化を図る。	
		○受講者の満足度 80%以上	・オリエンテーション(講座前に実施) ・受講者へのアンケート調査の実施 ・運営委託業者と調整	・アンケート調査を毎回実施し受講者の理解度を把握 ・アンケート調査結果をもとに研修内容を調整	A		
(農産加工支援研修) 受講者数	○受講者数の確保 2講座 15名	・農業青年クラブ員及び女性組織等への周知	・関係機関に対し、研修成果や研修内容等について具体的な事例を紹介し、農業者等へのPRを行った。 ・基礎研修 12名 ・応用研修 4名	A	食品衛生法改正に伴い、食品衛生の管理方法等の支援を行う。		
	○受講生の理解度 80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施	・食品衛生、加工技術、歩留まり計算、原価計算、包装技術、ラベル作成等、農産加工の基礎的な知識・技術習得のための講義及び演習を実施した。 ・HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強化研修を実施した。 ・毎回、受講後のアンケート調査を実施し、進捗状況を把握、理解度をチェックした。その結果、講座内容を概ね理解した受講生は80%以上と目標をクリアできた。	A			



目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実		○受講者1人(組織) 商品化を目指した1 品目以上の試作	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品づくりと試作研究への指導</li> <li>新商品開発能力を高める試作研究への指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品化につながる試作品づくり及び新製品の開発能力向上のための知識・技術の指導を行った。</li> <li>個別計画に沿って、試作研究演習を個別で実施、また、試作研究指導を実施し、技術習得ができた。</li> <li>受講者全員、1品目以上の試作品を製造した。</li> <li>関係機関と連携し、商品化に向けた新商品開発を行うための評価及び検討会を実施した。</li> <li>その後、受講生にフィードバックしたので、今後の更なる商品開発の参考になると考える。</li> <li>農産加工を取り入れ実践している先進事例について、視察研修を実施。</li> <li>HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強化研修を実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品化を目指した試作研究の指導・支援を行う。</li> </ul>	
	農業者組織(農業青年クラブ)活動の活性化	○研修に対する満足度 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修等の開催</li> <li>コロナ禍による影響を鑑みて役員理事会、三役会、各部会等はZOOMを活用し、オンライン開催を含めて実施した(毎月1回以上)</li> <li>今年度、非加入クラブ組織(伊万里4Hクラブ)が県連活動へ復帰した。</li> <li>農業青年会議は新型コロナウイルスにより中止した。</li> <li>さが農業力向上セミナー、農業大学校生との合同研修会を開催した(7月、参加者;35名)(12月、参加者36名)</li> <li>冬季のつどいは、コロナの影響により、2/17に開催形態をビデオ審査会として実施。</li> <li>九州沖縄地区行事の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>代表者会議を開催した(5月、2名)</li> <li>九州沖縄地区農業青年会議を開催した(7月、40名)</li> <li>九州農政局長と語る会への出席を呼び掛けた(12月、3名)</li> </ul> </li> <li>研修会に参加したクラブ員の8割以上が満足だったと回答した。</li> <li>参加後の聞き取り調査等の実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規会員の加入呼びかけ・促進を行い、県内全体のクラブ活動の活性化を図る。</li> <li>引き続きコロナ禍に対応した開催方法によって、活動が停滞することがないように研修会のあり方を検討していく。</li> </ul>	

目標	評価項目	令和3年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	農業者組織(青年農業士)活動の活性化	○研修に対する満足度  やや満足以上の割合80%以上	・青年農業士を対象に、新型コロナの発生に対応した各種研修の開催	・各種研修会 ・農業士との合同研修の開催 1回(中止) ・先進地事例調査の実施 1回(R4.1.21 5名参加) ・県外研修への派遣 2名程度(2月上旬に2名派遣予定)	B	・参加しやすい研修会の開催。	
			・参加者へのアンケート調査実施	・研修後に参加者へのアンケート調査を実施 先進地視察では六次産業化への取り組みの参考となり、参加者からは満足との回答だった			
	農業者組織(農業士)活動の活性化	○研修に対する満足度  やや満足以上の割合80%以上	・農業士を対象とした各種会議・研修会の開催  ・さが農業女子サミット実行委員会の開催	・各種会議の開催 ・役員会議 2回 ・佐賀県内JA代表者との意見交換会(11月) ・県農政関係課長との意見交換会(中止)  ・各種研修会の開催 ・青年農業士との合同研修会(中止) ・九州・沖縄農業士研修会(中止) ・さが農業女子サミット(女性全体研修会)(1月) ・女性農業士研究会(11月) ・指導農業士全国研究会(1月)  ・各部会活動の実施(7部会) ・研修後に参加者へのアンケート調査を実施したところ満足との回答だった。	A	・コロナに対応した研修会の実施。	

※到達した学生の割合とは、農業実習の評価基準における技術評点80~62点(100点満点で)以上の者の割合とする。